

令和7年度 施政方針

(はじめに)

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」

鴨長明の「方丈記」における冒頭の一説です。

この意味は、「流れゆく川の水は絶えることはありませんが、よく見ると、一見変わらないように見えても、水そのものは常に新しい水と入れ替わり続けていることから、変わらないように見えても、変化しないものなどはなく、全ては常に変化している。」というものです。

近代においても、生物学者の福岡伸一氏が、意味を同じくして「動的平衡」ということを提唱しています。

この「動的平衡」とは、「生命の秩序を守るために、新陳代謝のように、絶えず秩序を壊し、崩壊してゆく生命の構成成分を先回りして分解し、崩壊していく速度よりも、早く再構成し続けることにより、絶え間ない流れの中でその機能を維持した状態」のことを表しています。

私は、私たちのまちや組織についても、これらと同じようなことが言えるのではないかと考えております。一つは、まちや組織を維持していくために、世代交代がされていくこと。そして、もう一つは、絶え間なく流れる社会変化の中で、まちや組織を維持するために、従来の考え方や仕事のやり方にとらわれることなく、取組みを見直していくこと。

こうして、まさに新陳代謝が行われるように、考え方や取組みを常に変化させ続けていくことにより、私たちは目指すべき未来に向けて進んでいくことができるのだと考えております。

さて、昨年におきましても、高浜市出身の若い世代の輝かしい活躍により、目指す未来が明るく照らされたように感じた年となりました。

プロゴルファーの杉浦悠太選手は、7月、国内メジャー大会の一つである、「日本プロゴルフ選手権大会」で、大会史上5人目となる初出場での優勝を果たし、ルーキー・オブ・ザ・イヤーを受賞されました。女子におきましても、神谷奈恵選手、神谷桃歌選手がプロテストに合格し、高浜市から二人の女子プロゴルファーが誕生しました。

また、高浜高校地域活動部SBP班が、内閣府主催の「地方創生★政策アイデアコンテスト2024 官民連携の部」で優秀賞を受賞されました。

私どもも、「こども若者会議」の開催や、若者の提案に特化した「市民予算枠事業交付金（若者応援版）」の創設など、未来を担うこどもや若者の声を聞く機会の創出や若者のチャレンジを応援してきたところです。

本市の将来都市像である、「人と想いが つなぐつながる しあわせなまち 大家族たかはま」は、若い方から高齢者の方まで、多種多様な市民の皆様が活躍している

姿を目指しております。その実現に向けては、社会環境の激しい変化の中でも、変化に対して柔軟に対応し、弛まぬ成長をしていくことができるよう、取り組んでまいることが肝要と考えております。

さて、令和7年度の当初予算につきましては、昨年度に引き続き「未来に繋ぐ変革予算」と位置づけ、市財政の持続可能性を担保するため、これまでの一件査定方式を一部見直し、各部局における歳出上限の目安を示した、「枠配分予算方式」を採用いたしました。

また、枠配分額の算定や行政経営改革ヒアリング等に基づく既存事業の見直し期間を十分に設けるため、予算編成のスタートを前倒しいたしました。これにより、各事業の目的や必要性を改めて検証し、効率的・効果的な事業の推進を図り、既存事業の縮小・廃止も含めた検討を行ってまいりました。

加えて、「ビルド・アンド・スクラップの徹底」並びに「重点取組事業への財源配分」の考え方のもと、「安心・安全な子育て環境に関する事業」、「教育環境の向上に関する事業」、「DX推進に関する事業」、「地球環境の保全に関する事業」、「地域経済の活性化に関する事業」、「地域共生社会の実現に向けた事業」の6事業を重点取組事業として位置づけました。

（令和7年度の主要施策）

それでは、これより令和7年度の主要施策について、第7次高浜市総合計画の基本目標に沿って述べさせていただきます。

はじめに、基本目標Ⅰ「手を取り合ってみんなでまちをつくろう」でございます。

協働推進におきましては、コロナ禍以降、地域団体における役員などの人材不足に加え、団体を構成するメンバーが少なくなっているなどの課題が年々顕著に現れております。特に、町内会につきましては、加入率が年々低下しておりますので、町内会に加え、まちづくり協議会の活動の意義や必要性を多くの方にご理解いただくためのPR強化に努めるとともに、活動のあり方について検討してまいります。

また、とりわけ、未来のまちづくり人材となる若い世代の声を聴き、活躍の場を創出するなど、まちづくりに関わるきっかけづくりに取り組んでまいります。

高浜市の魅力を知り、応援したいと思っていただくためには、高浜市のことを知っていただくことが必要不可欠です。さらなるSNSの活用やふるさと応援交付金のPRなど、シティプロモーションをはじめとした情報発信の強化・改善に取り組んでまいります。

DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進におきましては、引き続き、自治体情報システムの標準化を進めるとともに、書かない・待たない・行かないデジタ

ル窓口の実現を目指し、ICT推進グループの名称をDX推進グループに改め、策定中の「DX推進計画」を基に、これらの取組みを加速させてまいります。

**次に、基本目標Ⅱ「みんなで学び・高め合い 高浜の未来を育もう」で
ございます。**

子育て・子育て支援におきましては、「子どもを持ちたい」という、妊娠を望む方々の気持ちに寄り添い、経済的負担を軽減し、安心して不妊治療に臨むことができるようにするため、これまでの一般不妊治療助成に加えて、新たに生殖補助医療助成事業として、体外受精や顕微授精といった治療費の補助を実施してまいります。

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにとらわれない形での支援を強化するため、一定時間までの利用可能枠の中で、就労要件を問わず時間単位等で柔軟に利用できる「乳児等通園支援事業（通称：こども誰でも通園制度）」を令和 8 年度からスタートすることができるよう、吉浜幼稚園の幼児用教室の改修などを行ってまいります。

また、更なる子育て支援の充実を図るため、高校生世代までの入院医療費の無料化を行ってまいります。

学校教育におきましては、老朽化が進んでいた小中学校の校舎について、公共施設総合管理計画に基づき、計画的に改修等を進めております。令和 4 年度から長寿命化改良工事を実施してきた高取小学校につきましては、令和 6 年度末をもって工事を終える予定であり、現在は、順次改修された教室等を使い、授業を行っております。

また、現在工事を行っている吉浜小学校に加え、令和 7 年度から港小学校の長寿命化改良工事を始めるほか、児童・生徒の学習環境を整えていくため、中学校屋内運動場空調設備の整備に係る設計業務を実施していくなど、学校施設の環境改善を進めてまいります。

生涯学習におきましては、「新編高浜市誌 高浜市のあゆみ」の刊行後に実施した、浄土真宗の名刹「浜の三か寺」の一つである恩任寺の調査を基に、市誌を補完する「高浜市のあゆみ資料」を刊行し、新たなまちの魅力・自慢を掘り起こし、市民の皆様と共有できるようにしてまいります。

また、かわら美術館・図書館は前身のかわら美術館が開館してから本年度で 30 周年を迎えます。開館当時から正面玄関にて来館者をお迎えしております、瓦製のしゃちほこについて、老朽化が進んでいることから、昨年末からガバメントクラウドファンディングを活用し、修繕に向けた支援を募ってまいりました。これまでに多くの皆様からのご支援をいただきましたので、そのご支援を活用し、しゃちほこの修繕を行い、開館 30 周年に花を添えるべく、取り組んでまいります。

次に、基本目標Ⅲ「行きたい 住みたい 住み続けたい 魅力がつながる まちをつくろう」でございます。

都市基盤の分野におきましては、市民の皆様が安全、安心で快適に生活するために必要な住環境の整備として、道路、橋りょう、公園、水道施設などの計画的な維持・修繕を行ってまいります。また、局地的集中豪雨などの自然災害対策として、取り組んでまいりました、八幡町、新田町地内の排水ポンプ施設の整備工事につきまして、令和7年度の完成に向けて、引き続き着実に取り組んでまいります。

安全・安心に生活できる、住みやすいまちづくりの基盤として、利便性が高く市民に喜ばれる「誰一人取り残さない」公共交通網を形成するため、多くの事業所様のご協力を得て、昨年10月より「チョイソコたかはま」の実証運行を開始いたしました。本年は利用者アンケートを実施するなど、市民の皆様の声に寄り添い、運行改善を図り、引き続き、関係者の皆様のご協力をいただきながら、さらに利便性を高めてまいります。

環境分野におきましては、快適な生活環境を次の世代へつないでいくことを決意し、昨年3月に「2050ゼロカーボンシティ宣言」をさせていただきました。その理念のもと、温室効果ガスの排出量削減に向けて、高浜小学校、地域交流施設たかぴあ及び高浜児童クラブに太陽光発電設備を設置するための事業に着手してまいります。

また、衣浦衛生組合により策定された「クリーンセンター衣浦整備構想（改訂版）」を基に、今後の廃棄物処理について、碧南市と連携して検討を進めてまいります。

次に、基本目標Ⅳ「心もからだも元気 毎日を笑顔で暮らそう」でございます。

福祉・健康分野におきましては、引き続き、地域の中に世代や属性を超えて、交流できる多様な場や居場所を整備するべく、全国こども食堂支援センター「むすびえ」と協力し、モデル地区として選定した翼小学校区内をはじめ、市内全域を対象に、多世代が交流できる居場所の創出を行ってまいります。

防災におきましては、昨年1月1日の能登地方で発生した能登半島地震から1年あまりが経過しました。被災され、今もなお厳しい生活を余儀なくされている皆様に心よりお見舞いを申し上げます。

こうした大規模災害発生時において、避難所の迅速かつ円滑な開設・運営ができるよう、避難所で使用する備品等を保管する防災倉庫を、令和7年度より順次、増設してまいります。

また、能登半島地震においては、市職員を石川県志賀町に派遣させていただいた中で、被災した建物の被害認定調査及び罹災証明書の発行を迅速に行うことにより、被災者の生活再建支援のスピードが速まることが確認できました。そのため、被害認定調査の迅速かつ正確化、並びに台帳での被災者への対応状況を管理できるよう、近隣

市町等と共同で被災者支援システムを導入してまいります。

最後に、各目標の実現を支える行財政運営でございます。

本市ではこれまで、タブレットやペーパーレス会議システムの導入など、紙文書を削減させる取組みを行ってまいりました。これらの取組により、少なくとも年間で約 29 万枚の紙を削減できております。これらの取組みをさらに加速させるため、文書の作成、共有、承認などの業務フローを電子化・自動化する「文書管理システム」を導入し、紙文書の発生の更なる抑制を図ることで、紙による保管文書の総量の削減につなげるとともに、文書処理事務の効率化を図ってまいります。

以上、令和 7 年度の市政運営に当たり、重点施策について、申し述べさせていただきます。

(結びに)

昨年、月面着陸実証機「SLIM」が月面への着陸に挑戦し、見事成功されました。その着陸性能は、着陸目標点位置から誤差 10 メートル程度以下の、世界初となるピンポイント着陸となり、日本中が沸き立ったことは記憶にも新しいのではないのでしょうか。

我が国の宇宙開発のルーツをたどりますと、「日本の宇宙開発の父」と称される、糸川英夫先生に行き着きます。

「人生で最も大切なのは逆境とよき友である。」

これは、苦難の連続を乗り越え、成功をつかんだ糸川先生の銅像の下に刻まれた言葉であります。

我々を取り巻く社会環境は常に刻々と変化を続けております。時には、大規模な災害や、新型感染症、経済状況の変化など、予期せぬような事態に直面することもあります。こうしたことは、糸川先生が言うところの、「逆境」と捉えることもできるでしょう。

しかし、そうした状況であっても、私どもは将来の理想とするまちの姿を考え、その実現に向けて、時代の変化に合わせて、これまでの前例にとらわれず、チャレンジをし続けてまいりました。共にまちづくりに取り組み、共に歩んでいただいた市民の皆様は、まさに「よき友」であります。皆様の「このまちに対する想い」と「行動力」に、改めて敬意と感謝を申し上げます。

第 6 次、そして第 7 次の総合計画の将来都市像でも込められた『大家族』の言葉が示すように、互いを思いやり、支え合い、人と想いをつながけながら、市民の皆様と手を携え、新たな時代を切り開き、高浜市をその先の未来へとつなげてまいります。

今後とも議員各位並びに市民の皆様の、より一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

げ、令和 7 年度の施政方針とさせていただきます。